

農業委員会だより

発行

長野市農業委員会

編集

農業委員会だより編集委員

長野市大字鶴賀緑町1613番地

電話 026(224)5060

有線 09-3171

抑草作物の栽培にチャレンジ

「ヘアリーベッチに期待」

長野市農業委員会は、管内が広域にわたることから、北部、西部、東部、南部、中部の5調査会に分かれ、日常の活動を行っている。

我々の所属する中部調査会（小林忠人調査会長）は、川中島と東北地区を担当しており管内選出の委員5名で構成している。



各調査会では、それぞれテーマを設けて活動を実践しているが、主に遊休荒廃農地の復元や新規作物の試作等に取り組み、各地域への普及推進を目指している。

中部調査会では、2年前から管内の土壌条件に適した抑草作物（雑草の発生を抑える作物）の試作に取り組んでいる。数種類の抑草作物を試作した中から、管内に適する「ヘアリーベッチ」を選抜した。

ヘアリーベッチについては、群馬県の渋川市でも取り組んでおり、大きな成果を上げている。昨年の農業委員会の県外研修でも、現地視察を行い、今年の試験の参考にした。

遊休農地対策の最も大きな課題は、雑草の処理である。そこで、ヘアリーベッチを栽培することにより、雑草の発生を抑え、更に土壌への有機質の補給にもつながる利点がある。栽培期間中に、新たな就農者を探すことにより農地の荒廃化も防げる。

中部調査会では、ヘアリー

ベッチが夏場以降、自然に枯死し、土壌表面を完全に覆い、稲ワラでマルチしたような状態になることから、そこにカボチャの苗600本ほどを定植。定植後の集中豪雨で圃場が数日冠水し、活着率が悪く、当初計画通りの生産にはならなかったが、生き残った苗に結実したカボチャを秋の長野市農業フェアや地元の農業祭で格安に販売、消費者から喜ばれた。

なお、ヘアリーベッチは、夏以降に自然枯死し、マルチ状態になるが、秋にこぼれた種子から発芽してくる。その為に2年目以降は、前年の生育が悪い部分に追いつき撒きする程度で良いことから、管理に多くの労力を要しないことも利点である。ただし、初年度の秋に種を撒く時点では、雑草の無い清耕状態が不可欠と思われる。

農業委員 小山 英壽

